

平成 31 (2019) 年 4 月入学以降の学士課程入学試験の変更について (予告)

東京工業大学では、平成 31 年 4 月入学の入学者選抜より、募集人員、選抜方法等を次のとおり変更します。

1. 学院, 学院を構成する系及び募集人員

学院	系	募集人員
理学院	数学系	151 人
	物理学系	
	化学系	
	地球惑星科学系	
工学院	機械系	348 人
	システム制御系	
	電気電子系	
	情報通信系	
	経営工学系	
物質理工学院	材料系	178 人
	応用化学系	
情報理工学院	数理・計算科学系	92 人
	情報工学系	
生命理工学院	生命理工学系	150 人
環境・社会理工学院	建築学系	109 人
	土木・環境工学系	
	融合理工学系	
全学合計		1028 人

2. 試験区分とその募集人員

学院	募集人員	前期	後期	推薦	A O
理学院	151 人	143 人	—	8 人	—
工学院	348 人	314 人	—	—	34 人
物質理工学院	178 人	160 人	—	—	18 人
情報理工学院	92 人	86 人	—	—	6 人程度
生命理工学院	150 人	105 人	35 人	—	10 人
環境・社会理工学院	109 人	92 人	—	—	17 人
合計	1028 人	900 人	35 人	8 人	85 人

※環境・社会理工学院の A O 入試は系単位で募集します。A (建築学系) 7 名, B (土木・環境工学系) 5 名, C (融合理工学系) 5 名それぞれ募集します。

3. 前期日程

- (1) 入学試験合格者の入学時の所属を、「類」から「学院」に変更します。
- (2) 前期募集人員を、全学一括募集し、志願者は、6つの学院から希望する順に3つの学院を選択して出願します。
- (3) 本試験の合格者は、現行と同じく個別学力検査の成績及び調査書の内容を総合して決定します。
- (4) 入学時の所属学院は、本試験の得点上位者から希望した順序に従い決定します。
- (5) 個別学力検査の試験科目、試験時間、配点及び大学入試センター試験の取り扱いは、変更しません。

4. 後期日程

- (1) 入学試験合格者の入学時の所属を、「第7類」から「生命理工学院」に変更します。
- (2) 個別学力検査の試験科目、試験時間、配点及び大学入試センター試験の取り扱いは、変更しません。

5. 推薦入試

- (1) 推薦入試合格者の入学時の所属を、「第1類」から「理学院」に変更します。
- (2) 推薦要件、提出書類及び大学入試センター試験の取り扱いは、変更しません。

6. AO入試

- (1) AO入試合格者の入学時の所属を、「類」から「学院」に変更します。
- (2) 大学入試センター試験の受験を要する教科・科目は変更ありません。
- (3) 第1段階選抜については、次のとおりです。

【工学院，物質理工学院，生命理工学院，環境・社会理工学院A，B】

志願者数が学院（環境・社会理工学院においてはAまたはB）ごとの募集人員の約2～3倍を超えた場合には、本学が指定する大学入試センター試験5教科7科目の成績（得点合計）により第1段階選抜を行うことがあります。

第1段階選抜における大学入試センター試験の各教科の配点は、下表のとおりです。

教科	国語	地理歴史， 公民	数学	理科	外国語※	合計
配点	200	100	200	200	250	950

※ 外国語科目として英語以外の科目を選択した者及び英語リスニング免除者は、外国語配点200点を250点に換算した得点とします。

【情報理工学院】

志願者数が学院の募集人員の約2～3倍を超えた場合には、センター試験の得点と出願書類を用いて第1段階選抜を行います。第1段階選抜の判定では活動実績報告書の内容を重視します。センター試験の得点は、基礎学力の判定のために用い、概ね700点以上の得点かどうかで判断します。

第1段階選抜における大学入試センター試験の各教科の配点は、下表のとおりです。

教科	国語	地理歴史, 公民	数学	理科	外国語※	合計
配点	200	100	200	200	250	950

※ 外国語科目として英語以外の科目を選択した者及び英語リスニング免除者は、外国語配点200点を250点に換算した得点とします。

【環境・社会理工学院C】

志願者数が環境・社会理工学院Cの募集人員の約2～3倍を超えた場合には、志望理由書、調査書、その他提出書類を総合的に判断し、第1段階選抜を行います。（大学入試センター試験の成績は、最終合否判定に用います）

(4) 第2段階選抜については、第1段階選抜に合格した者に対して、次のとおり行います。

個別学力検査（総合問題）

学院		総合問題	最終合否判定に用いる提出書類等
工学院		筆記 面接	志望理由書，調査書
物質理工学院		筆記 面接	志望理由書，調査書
情報理工学院		面接	(※1)活動実績報告書，調査書，大学入試センター試験成績
生命理工学院		筆記 面接	志望理由書，調査書，大学入試センター試験成績
環境・社会理工学院	A	造形課題	志望理由書，調査書
	B	筆記 面接	志望理由書，調査書
	C	面接	志望理由書，調査書，大学入試センター試験成績，(※2)英語外部スコア（任意提出），国際バカロレア成績証明書（該当者のみ）

※1 活動実績報告書は、志願者の活動や研究を志願者本人が記載するものです。

活動や研究の例：ソフトウェアの開発や調査，数学オリンピック，情報オリンピックやプログラミングコンテストへの参加，難しい数学の証明への挑戦，学内や学外での課題研究，数学セミナーの「エレガントな解法求む」に採用された経験，機械学習ツールの使用経験等

※2 英語外部スコアは任意提出。4技能（「聞く」「読む」「話す」「書く」）試験（英検，TEAP，TOEFL，IELTS など）が望ましいが，それ以外の試験（TOEIC など）も受け付けます。

試験内容等

学 院	総合問題		内 容
工学院	筆 記		工学の基礎となる与えられた課題に対する論理的な思考力, 解決力および記述力を評価する。
	面 接		工学分野に対する志望動機, 与えられた物理や数学のテーマに関して論理的かつ明快に説明する能力を評価する。
物質理工学院	筆 記		自然科学全般を範囲とし, 特に化学と物理を中心とする知識及び考え方について出題し, 論理的な思考力とともに記述力も評価する。
	面 接		科学的な知識及び考え方について試問し, 考察力, 表現力とともに物質についての科学技術を学ぶ上での適性を評価する。
情報理工学院	面 接		志願者の活動実績報告書に関する発表や質疑応答等に基づき, 情報に対する適性・素養・説明能力を評価する。
生命理工学院	筆 記		生物に関する設問により, 基礎学力, 論理的な思考力及び記述力を評価する。
	面 接		生命理工学分野に対する志望動機, 学習意欲, 論理的な思考力及び適性を評価する。
環境・社会理工学院	A	造形課題	高校数学Ⅲ程度までの数学を応用した建築に関連する形態の造形, スケッチおよび説明文を解答させる。
	B	筆 記 面 接	国内外の社会や環境に関わる公共的な課題に対して, 問題の所在を整理し, 解決できる素養並びにその表現の能力を評価する。
	C	面 接	グローバル化する世界における様々な国際的な環境・社会問題に対して, 科学技術を活用して問題解決に貢献するための素養を, 面接によって評価する。

※ 学士課程2年目の系所属の際に環境・社会理工学院では, 総合問題Aを受験し合格した者は建築学系に, 総合問題Bを受験し合格した者は土木・環境工学系に, 総合問題Cを受験し合格した者は融合理工学系に, それぞれ所属する。

本予告は平成29年6月現在の予定であり, 変更の可能性があります。
出願に当たっては, 各年度の入学者選抜要項, 募集要項を必ず確認してください。